

水素社会推進構想の改定

令和7年8月4日

兵庫県企画部総合政策課

水素社会推進構想の改定

- 「水素社会推進構想」(H31.3策定)は、県がめざすべき水素社会の姿と取組の方向性を大きな視点から提示
- これまでの取組や法整備、技術開発等、水素社会実現に向けた動向の進展を踏まえ、**今年度改定**
- 改定にあたっては、以下により将来像の解像度を上げ、全ての主体の取組を加速
 - ① 県内各地域の将来的な水素需要量を提示、② 今後の短期・中長期的な取組方針を再整理
- 産学官で構成する**「ひょうご水素社会推進会議」**から改定にかかる意見を聴取
推進会議のもとに**「構想改定検討会」**を設置し、集中的に検討

1 兵庫水素社会推進構想（平成31年3月策定）の概要

めざす水素社会の姿と取組の方向性

短期的取組：～2025年頃 [水素利活用の拡大、社会への普及]

- ① FCモビリティの普及促進
- ② 燃料電池（家庭用、業務・産業用）の普及促進
- ③ 水素関連分野の技術開発や新事業創出等への支援
- ④ 水素への理解向上に向けた普及啓発



中長期的取組：～2040年頃 [水素大量消費時代を見据えた対応]

- ① 低コストな水素利用の実現
(水素受入基地の立地、水素ガスタービン発電の導入)
- ② 再エネ等地域資源を活用したエネルギー自立型社会の実現

2040年頃～ [水素社会の浸透]

- ① 各地域の取組の面的拡大、全県への浸透

2050年頃 [水素社会の実現]

- 環境に優しい脱炭素社会
 - ① CO₂排出量が低減し、温暖化対策に貢献
 - ② 水素の蓄エネ機能等を活用し、高効率なエネルギー利用が実現
- 県民の快適で安心な暮らしが守られている社会
 - ① 燃料電池等の活用により非常時にも安定的にエネルギー供給ができ、安心な暮らしが確保
 - ② エネルギーセキュリティにも寄与
- 経済の好循環が生まれ、
産業や地域が活性化している社会
 - ① 企業集積や新規参入が促進され、地域経済が活性化



水素社会推進構想の改定

2 検討内容

- (1) 県内のエネルギー消費量の多い事業所を対象に燃料使用量や水素利用ニーズを調査し、地域ごとの将来的な需要量の見える化
- (2) 各地域の需要に応じた水素サプライチェーンの展望
- (3) 県内中小企業の参入促進の方向性
- (4) 人材育成の方向性
- (5) 現構想の策定以降、新たに利用が見込まれる
「アンモニア」や「e-メタン」等の活用の方向性

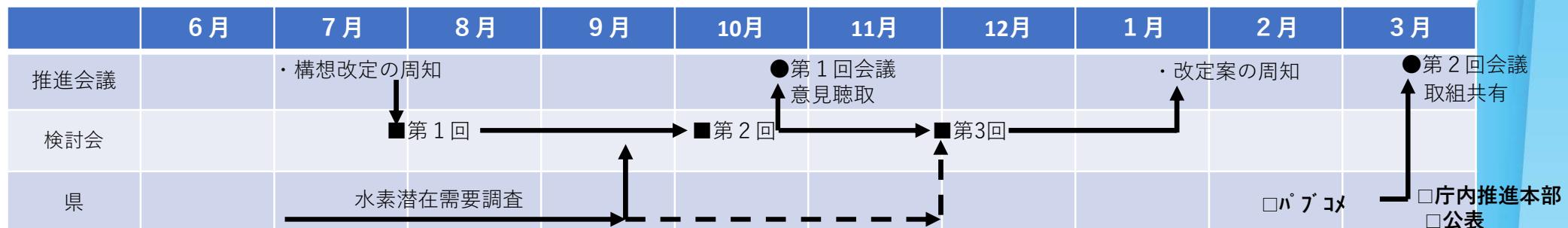
3 検討組織

- (1) 「ひょうご水素社会推進会議」から改定にかかる意見を聴取
- (2) 推進会議のもとに「構想改定検討会」を設置し、集中的に検討

事務局：県総合政策課

オブザーバー：県庁関係課（地域産業立地課、新産業課、環境政策課、水大気課、港湾課等）、神戸市

4 スケジュール



兵庫県水素社会推進構想改定検討会メンバー

団体名	分野
岩谷産業(株)	策定時の委員 ／県内での水素製造・運搬、先端技術開発
大阪ガス(株)	県内での水素利活用（ガス）
川崎重工業(株)	策定時の委員 ／県内での水素製造・貯蔵・運搬・利活用技術開発
関西電力(株)	策定時の委員 ／県内での水素利活用（電力）、サプライチェーン検討
(株)神戸製鋼所	県内での水素利活用（熱）、エネルギー・システム開発
三菱重工業(株)	県内での水素製造、利活用（電力）技術開発
(公財)新産業創造研究機構	県内での水素産業育成
神戸大学（武田教授）	水素・未来エネルギー技術研究センター長 ／エネルギー工学
兵庫県立大学（草薙教授）	エネルギー・環境・ネットワーク研究会事務局長 ／産業・環境・経済

検討会での論点（案）

第1回（今回）

- ・これまでの产学研官の取組の振り返り
- ◎ 推進構想で描く

2050年の水素社会の姿について意見交換

第2回（9月頃）

- ・2050年の水素社会の姿のとりまとめ案を提示
- ・県内各地域の将来的な水素需要量の提示
- ・需要に応じたサプライチェーンのイメージを提示

◎ サプライチェーンのあり方等について意見交換

第3回（12月頃）

- ・県内サプライチェーンの展望についてとりまとめ案の提示
- ◎ 今後の取組の方向性について意見交換
- ・改定案（骨子）の提示

水素社会の将来像の解像度を上げ、全ての主体が取組を加速できる構想へとアップデート

改定にあたっての前提

1. 構想で扱う「水素」の定義

- 現構想では、水素の定義が不明確



- 改定にあたって、「水素」の定義を以下のとおりとしたい

構想で対象とする「水素」は、水素及び水素から合成されるエネルギー源とする

(水素単体のほか、アンモニアや合成メタン、合成燃料など水素から合成されるエネルギー)

2. 構想でめざす水素社会の年次

- 現構想では、2050年頃の水素社会の姿を展望



- 改定においても、**2050年頃の水素社会の姿を展望した構想とする**

(カーボンニュートラルの達成を目標とする年次、

水素基本戦略における需要やコスト目標が示された年次などと整合)

検討会の取り扱い

- 検討会は非公開で実施
- 事務局資料は後日県ホームページで公開。議事要旨は委員の確認を経て、資料と併せて公開